

第 21 回自然環境委員会・第 11 回総合土砂管理委員会での指摘とその対応

| 項目 | 委員会での指摘事項 | 対応方針 |
|---------------------|---|--|
| 今後の河川整備・維持管理の検討について | <ul style="list-style-type: none"> ● 猪名川のあるべき姿は、出水の規模や頻度、流入土砂量など、現状で考えられる境界条件を用いて、実現可能な姿を検討する。【第 11 回総合土砂管理委員会】 ● 河床変動の予測は、数パターンの流量条件で河床変動計算を行い、傾向の違いを把握したうえで行う必要がある。【第 21 回自然環境委員会】 ● 河道掘削が必要となる区間は、上記（感度分析）を踏まえた予測によって明確にしておく必要がある。【第 21 回自然環境委員会】 ● 河道掘削事業は、環境や利水も踏まえた土砂移動の観点から、最適な河道を実現できる掘削方法を検討する。【第 11 回総合土砂管理委員会】 | <ul style="list-style-type: none"> ● 現状で実現可能な猪名川のあるべき姿、その姿を目指した総合的な土砂管理施策としての河道掘削・自然再生について、今後、具体的な検討を行い、両委員会に諮りながら計画を策定します。 |
| 河床変動モデルについて | <ul style="list-style-type: none"> ● 平成 19 年度に検討された 5 年間の河床変動予測は、近年における河床変動の実績と河道掘削工事の掘削土量から土砂収支の現状を整理し、予測の検証を行う必要がある。【第 21 回自然環境委員会】 | <ul style="list-style-type: none"> ● 当該一次元河床変動モデルは、総合土砂管理委員会の指導・確認を受けながら、改修工事を比較的实施していない昭和 57 年～昭和 58 年と平成 13 年～平成 16 年の 2 期間を対象として再現計算を行い、モデルの妥当性を確認しています。 ● また、現況河道の予測は、平成 16 年度の河道を初期河道として、昭和 58 年の実績流量を 1 年目（～平成 16 年）に用い、河道掘削を考慮せずに計算を行っています。 ● そのため、近年 5 年間における予測の検証は出来ませんが、定期横断測量を実施し、河道掘削を実施する前となる平成 16 年～平成 21 年を対象とした再現計算を上記の検討時に実施します。 |